

インド総選挙の結果

インド人民党の圧勝でモディ政権の続投決まる

2019年5月24日

日印協会代表理事・理事長 平林 博

1. 5月23日、インド下院総選挙の開票が行われ、ナレンドラ・モディ首相率いるインド人民党 (BJP, 形式的には党首は Amit Shah 氏) が圧勝した。この結果、モディ首相率いる国民民主同盟 (NDA) が引き続きあと5年は政権を担うことになった。

2. 5月20日に日印協会 web サイトに掲載し、次いで会員の皆様にも拙論で紹介した出口調査では、NDA は 277~352 議席獲得の予想であったが、5月24日午前、現在の結果は、予想上限の 349 議席であり圧勝といえる。NDA の中核 BJP は 303 議席を獲得しこれまでより 21 議席増やした。

他方、野党第一党で政権復帰を期したインド国民会議派 (INC) は、ラフル・ガンジー 総裁や人気の高いプリアンカ・ガンディー・ヴァドーラ幹事長 (ラフルの妹) などの努力は報われず、これまでより 10 議席増の 53 議席にとどまり、はるかに及ばなかった。国民会議派が中核となっている統一進歩連合 (UPA) は計 83 議席であり、NDA に遠く及ばなかった。

もともと、国民会議派は、かろうじて野党第1党の地位は守った。

3. 主な政党の獲得議席は、次のとおりである。1 議席以下は省略。

(カッコ内は、前回 2014 年総選挙との比較)

政党名	説明	獲得議席 (対前回比)
インド人民党 (BJP)*	与党、全国政党	303 (+21)
インド国民会議派 (INC)*	野党第一党、全国政党	53 (+10)
ドラビダ・進歩連合 (DMK)	タミルナド州地域政党	23 (+23)
YSR 国民会議派	アンドラ・プラデッシュ州地域政党	22 (+14)
草の根国民会議派 (TMC)	西ベンガル州地域政党	21 (-13)
シヴ・セナ	マハラシュトラ州地域政党	18 (0)
ジャーナタ・ダル	ビハール州地域政党	16 (+14)
ビジュ・ジャーナタ・ダル (BJD)	オディッシャ州地域政党	12 (+12)

大衆社会党(BSP)	ウッタル・プラデッシュ州地域政党	10 (+10)
テランガナ・ラシュトラ・サミティ (TRS)	テランガナ州地域政党	9 (-2)
ロック・ジャーナタ党 (LJP)	ウッタル・プラデッシュ州地域政党	6 (0)
ナショナリスト国民会議派	マハラシュトラ州	5 (-1)
社会党(SP)	ウッタル・プラデッシュ州地域政党	5 (0)
テレグ・デッサム党(TDP)	アンドラ・プラデッシュ州地域政党	3 (-12)
マルキスト共産党 (CPM)	西ベンガル州とケララ州の地域政党	3 (-6)
共産党 (CP)	同上	2 (+1)
シロマニ・アカリ・ダル (SAD)	パンジャブ州地域政党	2 (-2)

(注：インド選挙管理委員会の発表から筆者が簡略化し、政党の補足説明を付して作成)

4. 主要政党の州別の勝敗をまとめると次の通り。

(小さな連邦直轄地などは省略)

BJP がデリー首都圏をはじめ、主要な州をすべて席卷し、第1党となった。

国民会議派は、パンジャブ州以外は大きな州で惨敗した。

- ・BJP が第一党となった州： ウッタル・プラデッシュ、マハラシュトラ、ビハール、デリー首都圏、ハリアナ、ラジャスターン、グジャラート、カルナタカ、マディア・プラデッシュ、チャティスガール、アッサム、ジャンム・カシミール
- ・INC が第一党となった州； パンジャブ州、ケララ州、メガラヤ州、ナガランド州
- ・地域政党(カッコ内)が第一党となった州： 西ベンガル州 (TMC) ,タミルナド州 (DMK) , アンドラ・プラデッシュ州 (YSRCP) ,オディッシャ州 (BJD)、テランガナ州 (TRS)

5. 選挙結果に関する筆者の評価

出口調査は BJP の勝利を予想していたが、その上限ぎりぎりまで議席数を増やしたことは、国民の BJP 特にモディ首相への支持や期待が極めて大きいことを物語る。

この大勝利について、インドのマスコミ各紙は、モディ首相と津波を合わせた造語「ツナモ」が起きたと表現している。

勝因について筆者の（主観的？）観測を披露すれば下記の通り。

（１）なんといっても、モディ首相が「強い指導者」のイメージづくりに成功するとともに、「強いインドを」とのメッセージが国民に受けた。さらに同首相の卓越した発信力（演説のうまさで有名だった先輩の故ヴァジパイ首相並みの演説のうまさ）なども勝利に貢献した。

勝利が確定後、モディ首相は「ともに成長し繁栄し、ともに強いインドをつくろう」とツイートした。

（２）BJPの勝利に貢献したのが、皮肉なことにヒンズー至上主義政党とされるBJPを特に嫌うパキスタン（イスラム教が国教）であった。去る２月に起こったパキスタンからの越境テロに対し、パキスタン領内にまで入って空爆したインドの強硬な姿勢が国民を熱狂させ、それまでの「BJPか国民会議派どちらが勝つかわからない、ひょっとしたらBJPは下野するか？」という状況を一変させて形勢をBJPに傾けた。

（３）モディ首相が行ってきた改革（外資規制の緩和、物品サービス税の創設など）、汚職に対する厳しい姿勢、各省庁への強い掌握力、インフラ建設・整備の公約、まだ途上であるが「Minimum Government, Maximum Governance」（最小の政府による最大の統治）というキャッチフレーズの訴求力などが複合的に作用した。

（４）経済成長が遅れている農村での劣勢が伝えられ、国民会議派の働きかけがかなり奏功したが、農村重視の姿勢を強化し農村票を食い止めた。

（５）インドの国際的地位は急速に上がりつつあるが、その大きな要因はモディ首相の活発な首脳外交の成功特に良好な対米関係、これは、「自由で開かれたインド太平洋ビジョン」を掲げるなど理念を前面に出すとともに活発な首脳外交を展開するわが安倍総理にも通じるころである。安倍・モディ両首相は大変ウマが合うが、外交スタイルも似たところがある。安倍総理は、勝利が確定した昨晚、モディ首相に電話で祝意を表した。

6. 今後の組閣と施政方針演説

今後、BJPはNDA構成の諸政党とともに内閣改造、新政権の施政方針などを協議していくことになる。BJPが圧勝したために、連立内閣の組閣は比較的容易であろうし、基本的な政策もBJP中心に早急にまとまると予想される。

それらについては、7月8日（月）に桜田門外の法曹会館で開催予定の日印協会主催シンポジウム（参加要領は日印協会機関誌「月刊インド」ないし本ウェブ・サイトからお申

し込みを)で専門家、実務家からの説明に期待していただきたい。